

「土砂災害防止に大切なこと」

鹿児島県 鹿児島市立谷山北中学校 1年 安莊 心乃璃

ある日、土砂災害を題材にしているニュースを見た。そのニュースには、泣き崩れている人や、抱き合っている人の姿が写しだされていた。見てみると、とても悲しく苦しい気持ちになった。二度とこんなことが起きてほしくないと思い、私たちにできることは何か、鹿児島県が行っている防止対策は何かを知りたいと思った。

私たちの住んでいる鹿児島県は、過去に土砂災害が多発しており、全国でも土砂災害の多い地域の一つである。なぜなら、鹿児島県はシラス台地でおおわれているからだ。その中でも鹿児島県民のほとんどが知っている86水害。その水害で竜ヶ水という地域が土砂災害によって大きい被害を受けた。私の親戚の人の体験だが、電車に乗車中、竜ヶ水を通過している途中で、電車の前方と後方に土石流が流れ落ちて来たそうだ。それを聞いただけで全身がゾクッとした。あともう一步進んでいたら、命はなかったかもしれない。そんな中、そこにいた人たちは互いに助け合いながら危機的状況乗り越えたという。もし、私がこんな目にあっていたら、手も足も動かないかもしれないし、頭が混乱してしまうかもしれない。しかし、被害にあった人たちは冷静に指示に従って動いたそうだ。だが、この土砂くずれで亡くなってしまった人は4人で、行方不明者はまだ49人いるそうだ。

このような災害があった教訓としてどのような対策が行われているのか、鹿児島県が行っている土砂災害防止対策を調べることにした。86水害で大きな被害を受けた竜ヶ水地区では、あの日の災害以来しゃ面の補強や、雨の量が200ミリを超えると通行止めになるなどの対策をしている。そして、鹿児島県本部によると、「土石流やがけ崩れの発生するおそれがある区域を調査し、土砂災害警かい区域や、土砂災害特別警かい区域を指定している。」とあった。その他にも土石流や流木などを受け止め、被害を少なくする砂防えん堤や、しゃ面の保護などの施設を整備している。

こうして鹿児島県は私たちの身を守るためにいろいろな工夫をして土砂災害に備えてくれていることが分かった。でも、鹿児島県だけが防止対策をしても防げる確率は低い。私たちも自分自身で対策をしないと、土砂災害で命を落とすことがあるかもしれない。そこで、私たちにできることを考えてみた。1つ目は、準備しておくことだ。土砂災害はいつ起こるかわからない。だからその時に備えて食べ物や飲み物などリュックに入れておくことが大切だ。私の家には防災リュックがあり、長期保存ができる食べ物や飲み物、居場所を知らせるホイッスル、空気を入れたらふくらむしき布団などが入っている。今の時代、お店に防災グッズがたくさん売っているので、みなさんも目をむけてみては良いのではないだろうか。2つ目は、早めに避難することだ。私たちが警かい情報を知ることができるのはスマホやテレビだ。スマホでは緊張感を持たせるために怖く、嫌な音を出して土砂災害警かい情報を知らせる。テレビでは、音と共に字幕が流れる。しかし、警かいがでてから避難するのは遅いこともある。だから、警かいレベル4になった時点で、安全な場所を確保することが大切だ。でも、無理に避難場所へ行く必要はない。家の2階以上に行くことも避難だ。3つ目は、土砂災害危険箇所を知っておくことだ。鹿児島県はどこに行っても必ず山がある。だからどの山が危険箇所なのか、事前に知っておくことが大切だと考える。

今回、この作文を通して今まで知らなかったことを知識として取り入れることができたし、実際に土砂災害を経験した親戚の人の話も聞くことができ、改めて災害がどんなに怖いことなのかを知り、考えることができた。土砂災害を防ぐ方法はたくさんある。さきほど取り上げた3つの私たちにできることを実践し、自分自身の身を守ろうとすることが大切だと思う。鹿児島県と県民が協力するからこそ防げるのがたくさんあるのではないだろうか。